

架け橋

第5号

(令和3年1月)

発行 上都賀教育事務所ふれあい学習課
鹿沼市今宮町 1664-1
TEL:0289(62)7167 FAX:0289(62)0148
Email:kamitsuga-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp

皆様、新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。コロナ禍に負けず、社会教育・学校教育に邁進されている皆様に最大の敬意を表すと共に医療関係者の皆様へ心からの感謝を表したいと思います。

さて、今年度のふれあい学習課は、コロナ禍で思うように事業を実施できておりません。しかし、社会教育主事有資格者の皆様をはじめ、社会教育・学校教育で活躍されている皆様の活動に少しでも参考になればと考え、例年より多くの「架け橋」(情報紙)を発行しております。

本号は本年度の最終号となります。特別寄稿として、上都賀地区現職教員社会教育主事会長山口亨一先生(藤原中校長)にご執筆いただきました。どうぞお読みください。

令和2年の師走の最中、大晦日に向けて総決算するように、いろいろな人がいろいろなことを話していました。このコロナウィルス、というものは、何だったのだろう、いや、何なのだろう、と。

昔、鳥インフルエンザのパンデミックを想定したNHKの番組を観たのを記憶していますが、実際に、私たちの目の前に「それ」が起こるとは正直誰も思っていなかったのではないのでしょうか。ただ、実際に起きてみて、過去を紐解けば、人類はそうしたことの歴史であることは分かるのですが、大晦日の村上春樹と山中教授のラジオの生放送で、「全く関係のない疫病なんだけど、世界の全体的な潮流の一部のような気がします。」という発言の様に、単なる『禍』を越えた、今だから起きた新しい挑戦であり、新しい地平を迎えているのでは、と思ったりしています。

それに対して、市井の私たちは、様々な情報収集・選択・決定をし、日常の平静をなんとか保って来た気がします。今回、マスク着用や交流減等によるコミュニケーションの難しさを大人でも子どもでも非常に感じました。ですので、子どもたちには自分の『笑顔』を表現するために、手のひらを精一杯広げて見せることとしました。普段はなかなか気がつかないのですが、私たちの日々は、大きなことではなく、ほんとうに小さな事によって支えられています。

去る11月12日に、廣瀬隆人先生と村山哲也先生の講話が上都賀庁舎でありました。ここ数年立ち合わせていただいた研修の中で、一番のものでした。

廣瀬先生と村山先生の計画された部分とJazzのアドリブの様な、何が出てくるか分からない、聴衆にもその力を求める様な、お二人のコミュニケーション力はそれは『凄い』としか言いようがありませんでした。

廣瀬先生から薫陶を受けられた方は、教員のみならず、この日本全国にいったいどれくらいの方がいらっしゃるのでしょうか。奇しくも、23年前の同日、平成9年11月12日、私は、県の自治研修所で、当時上野の社会教育研究所にいらしゃった廣瀬先生からの大爆笑の衝撃的な講話を拝聴し、時が止まったのを忘れないでいます。それからお付き合いいただいて、随分時間が流れたものだと感慨深く振り返ります。



R2 11/12 上都賀地区社会教育主事等研修会

また、平成20年頃、村山先生から、様々なコミュニケーションアクティビティを安足地区に出向いて学ばせていただきました。

ここ数年、学校現場にいてとても感じますことは、①世の変化のスピードがあまりに速いこと。②情報を集め選び、哲学や歴史から学び、現在を決定する難しさ。③様々な人や物とのコミュニケーションの不足。④行動を起こすことの意義、です。こういったことを感じる礎は、平成6年に学んだ「社会教育主事

講習」に源があると思いますし、その後、繋がり『縁』を深められた方々との存在であったように思います。

コロナウィルス禍が見せてくれているもの、教えてくれているものは、世界や社会の課題、人としての根源、そして新しい希望であると思っています。私たち、様々なものを学んできたものとして、廣瀬先生の懐かしい言葉を借りるなら、「学ぶ＝変わる」ということ。私たちは常に学び、変化し、そして、「不条理なこと」さえ向き合い、勝ち取ってきた新しい日常を『今』とし、どんな人でもどんな事でもコミュニケーションを取り、手を取り合い、笑顔で生きていくことに、私と一緒に歩いてきてくださった方々の意思が、私の意味があるのだと信じています。

(日光市立藤原中学校長 山口亨一 様)

ふれあい学習ネットワーク 2次募集のお知らせ

「令和2年度ふれあい学習ネットワーク」のお申し込みはお済みですか？

ちょっと興味はあったけど、申込期間を過ぎてしまった…という方に朗報です。参加のお問い合わせ多数のため、ご要望にお応えし、参加者枠を拡大して、2次募集いたします。

今年はおנדemand配信です。そのため、非常事態宣言下でも中止にはなりません。本研修会は、生涯学習・社会教育に興味のある方でしたら、どなたでも参加できます。

さらに、学校から出張旅費も必要ありませんし、参加者数の限定もありませんので、一校から複数参加もできます。

コロナ禍でも一歩一歩歩みを進めている社会教育実践者やコロナに負けず奮闘する学校教育関係の方々の様子を知って、ご自分の今後の仕事や活動を考えてみる機会にされてはいかがでしょうか。

ただし、YouTubeの「限定配信」です。そのため、インターネット上で検索してもコンテンツはヒットしません。下記のQRコードまたはアドレスにアクセスし、登録いただいた方だけご覧になることができます。

研修動画の内容ですが、地区内の社会教育実践者の方のインタビュー、本年度の上都賀地区ふれあい学習推進会議アンケートのまとめ等になっており、PCだけでなく、スマートフォンでも参加いただけます。

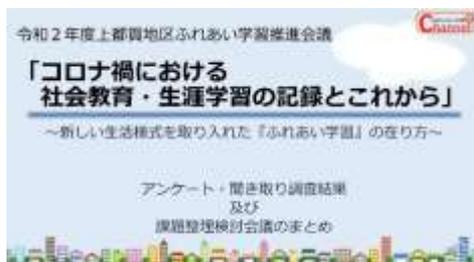
また、参加特典として、「上都賀教育事務所ふれあい学習課 channel」にある「限定配信コンテンツ」の廣瀬隆人先生の講話を2本視聴することができます。詳細は別送のチラシをご覧ください。

ぜひ、お時間を作ってお申込みいただき、お気軽にご覧いただければ幸いです。皆様、「コロナ禍の記憶を記録」しましょう。

○申し込み専用サイト <https://sugukiku.com/p/new?t=304888>

○追加申込期間 1月14日(木)～2月1日(月)

○コンテンツ紹介(一部)



アンケートのまとめ



活動者の様子



廣瀬隆人先生の講話



参加申し込みフォーム